

学校の授業等で活用できる「親学習」研修

平成29年8月4日（金曜日）

大阪府の親学習教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を使用したワークやその活用方法を学ぶことで、学校の授業における「親と自分の関係」、「親となることの意味」の学習や、教職員や保護者を対象とした学びの機会としての「親学習」実施を支援するため、教職員を対象に学校の授業等で活用できる「親学習」研修を実施しました。

1. 日時／場所 平成29年8月4日（金曜日）／大阪府教育センター
2. 参加者 31人（学校教職員、行政担当者）
3. 内容

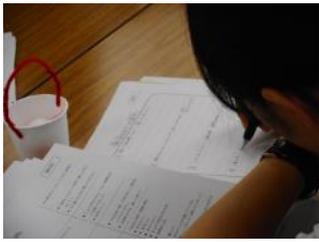
（1）大阪府より「親学習について」

地域教育振興課より、「親学習」の特徴や活用方法的、必要性等について説明しました。

（2）ワークショップ①・②

豊中市で親学習リーダーとして活動し、大阪府の家庭教育支援スーパーバイザーとしても活動いただいている方より、小・中・高等学校での児童・生徒や保護者を対象とした親学習をご紹介いただきました。

ワークショップ①として、親学習教材「接する」をもとにした、「たまごのワーク」を紹介いただき、実際の卵を使って、参加者が児童・生徒役になって体験しました。ワークショップ②では、親学習教材「親を知る」を使った親学習を体験しました。親学習を体験するだけでなく、学校で実践した際の様子、児童・生徒や保護者の感想なども紹介いただきました。

			
ワークショップ①。はじめに、親学習のルール「時間」「参加」「守秘」「尊重」を説明します。	赤ちゃんほどの重さがある沐浴人形を抱くことで、赤ちゃんについてのイメージを広げます。	たまごに顔をかき、プロフィールを考え、赤ちゃんとして接する疑似体験をします。	赤ちゃん（としているたまご）と接して感じたことを書き出し、グループで共有します。
			
グループごとにまとめた考えを発表し、全体で共有します。	ワークショップ②。まず、親学習教材「親を知る」を読み、感じたことを話し合います。	ワークシートに、それぞれが考える「親に求める5つの条件」を書き込みます。	グループで話し合い、考えをまとめていきます。

4. 参加者の感想

- ・実際に授業で活用したことがあったのですが、親を知る、親について考える、将来親になる、ということを強く押しすぎて、うまくいかないところもあり、今日は少しヒントになりました。
- ・教職員や保護者に広めていきたいと思います。親の気持ちを考えることは、子どもたちにとって非常に難しい。それは、親ではないからです。しかし、今回のような学習を通して親の気持ちを知るきっかけとなり、自分の思い、親の思いを大切にしようとするのでは・・・
- ・今回、小学校高学年の授業で活用できそうだと思います。保護者中心の生活に子どもが振り回されてしまったり、保護者の方がうまく子育てできず悩んでいるところがあります。学生のうちから親について学ぶことは、とても大事な機会になると思います。
- ・高等学校家庭科の保育の分野で、今日のワークを活用したいと思います。